



各チームが真剣勝負

東北の強豪が熱戦

稲垣町バレーボール協会（岡本幸剛会長）主催の第32回北日本中学生バレーボール稲垣大会が4月22日、稲垣体育館を主会場に開催され、東北の女子9チームが熱戦を展開しました。

この大会は、選手と指導者の交流を目的に、北海道・東北から強豪を招いて毎年開催されており、現在、実業団やVリーグで活躍する多くの選手も経験しています。

開会式では、稲垣中3年の山本春瑠乃さんが「支えてくれる人への感謝を胸にベストをつくします」と力強く宣誓し、大会がスタート。各コートに散った選手たちは、日頃の練習の成果を競い合っていました。結果は次のとおりです。

1位：稲垣中、2位：車力中、3位：栗石中

シバザクラいっぱいの明るい道路に

4月28日、地域一体で美しい環境を未来に繋げようと、イオンモールつがる柏東側の市道でシバザクラの定植活動が行われました。

約500メートルにわたる市道の両側には、市から提供されたシバザクラ約1万株が植えられることに。この日は、そのうちの約500株を同モールの従業員とその家族、地域住民ら約60人が、一株一株ていねいに植えつけていきました。

主催者である同モールの木村栄介ゼネラルマネージャーは「市の新しい名所“シバザクラロード”として定着すればうれしい。毎年の名物企画として活動を続けていきたい」と話していました。



シバザクラの苗を植える参加者



ウォークを楽しむ親子連れ

新緑の中「おやこウオーク」

4月29日、つがる地球村周辺で「おやこウオーク」が開催され、県内外から参加した約600人が、心地よい汗を流しました。今年で15回目となるこの大会は、開催実行委員会が主催（今淳一委員長）。今年から、県ウォーキングリーグの加盟大会となり、より県内のウォーク愛好家に知られる大会となっています。

この日、参加者は3キロ、6キロ、10キロ、15キロの4コースに分かれてスタート。青空に映える雄大な岩木山や新緑を眺めながら、それぞれのペースでウォーキングを楽しんでいました。村田結衣さん（車力小3年）は、家族4人で3キロコースに初参加。「お父さんと一緒にタラの芽見つけたよ。疲れたけどまだまだ歩ける」と楽しそうに話していました。

震災遺児へ音楽でエール

第6回震災遺児支援チャリティコンサートが5月12日、実相寺で開催され、来場者約150人が雅楽と吹奏楽の演奏を楽しみました。第1部は、日蓮宗雅楽会（渡辺貫誠会長）の8人が「越殿楽」など6曲を披露。第2部では、木造高校吹奏楽部の21人が、迫力ある演奏と趣向を凝らしたパフォーマンスで会場を沸かせました。司会を務めた木造高1年の一戸瑠茄さんは「お客さんの反応が近くてどんどん楽しくなりました」と笑顔を見せていました。イベントの収益はあしなが育英会に寄附しており、過去5回の寄付金は計639,057円。実行委員会代表の間宮秀文副住職は「もう大丈夫と言われるまで支援を続けていきたい」と話していました。



会場を盛り上げた木造高校吹奏楽部のメンバー

高山稲荷神社チームが奉納相撲で全国制覇

児童による奉納相撲の全国大会「全国鎮守の森こども相撲大会」が4月7日、8日、伊勢神宮（三重県）で開催され、高山稲荷神社チームが優勝しました。

この大会は、隔年で開催され今回が10回目。小結・遠藤関をはじめ、多くの力士が経験した大会です。3人制の団体戦には、20チーム約100人が参加。同神社からはA、Bの2チームが出場し、Aチームが全戦勝ち星を挙げる圧巻の強さを見せて団体戦を制しました。

5月20日、選手と保護者らが同神社本殿を参拝し、稲荷様に優勝を報告。優勝メンバーのマロー高尚君（弘前市・高杉小5年）は「厳しい稽古のおかげで、普段の力を出せた。優勝できてうれしい」と大会を振り返りました。



高山稲荷神社チームのメンバー



意見を交わす会員ら

つがるブランドの向上目指す

地域ブランドの構築などで地域活性化を図る「つがるブランド推進会議（会長・福島市長）」の平成30年度総会が4月27日、松の館で開催されました。

総会では、前年度の決算、新年度の予算と事業計画などを承認。今年も、県内外でのPR販売活動や農産物の品質向上を目指した取り組みを展開します。

また同会議では、市場に流通しないスイカを活用した「すいか糖」の開発に昨年より着手。スイカに含まれるカリウム、リコピン、シトルリンといった栄養素に着目し、運動パフォーマンスの向上や利尿作用などに効果がある栄養補助食品として、商品化を目指します。

品質のいい米づくりを

5月22日、福島市長はじめ農協関係者らが市内の水田を巡回して田植え農家を督励しました。

督励は品質の良い米作りの推進と体質の強い地域農業の確立のため、毎年田植えの時期に行われています。

この日、福島市長は車力地区で「まっしぐら」などを作付けしている大山良光さんの水田を訪れ、田植えの作業状況を確認。大山さんより「一時は大雨が続き作業を中断せざるをえなかったが、現在は順調に進んでいる。このまま好天が続いて欲しい」と報告があり、福島市長は「けがの無いように作業に取り組んでください。秋には良い米が収穫できることを期待しています」と激励していました。



作業を見守る福島市長



水辺にホタルを放流する園児

もりた保育園児がホタルを放流

5月21日、つがる地球村の藤山邸園庭で「ほたるの放流会」が行われ、もりた保育園（田中潔園長）の年長児26人がホタルの幼虫を池へ放流しました。

この日放流したのは、ヘイケボタル約150匹。園児たちは、幼虫に「大きくなあれ」と優しく声をかけながら、泳いで行く姿を見送っていました。奈良咲汰郎君（5才）は「元気に泳いで行ってかわいかった。ママと一緒に光ってるのを見に来たい」と成長を楽しみにしていました。

この放流会は、訪れる方にホタルの光を楽しんでもらおうとつがる地球村が主催。7月中旬から8月上旬にかけて、淡い黄緑色に光る幻想的な姿が見られるとのことです。